

# ありのままの風景を自ら楽しむ

## ~ イギリス発祥「フットパス」 ~



講師 井澤り子氏

美里フットパス協会会長  
美里町文化財保護委員会委員長  
熊本県ふるさと水・土指導委員  
くまもとふるさと食の名人 他多々

### 美里町をどうにかしたい！ 仲間が集まって勉強会が始まった

美里町は熊本県の中心にあたる場所。地の利が良く「来やすく、去りやすい通過地」です。数多くの石橋や日本一の石段、山野草、棚田、九州ハイランド、四季それぞれの景観や遊び場がありました。しかし2011年当時は、まだあまり知られていませんでした。この美里町を通過されるだけではもったいない！



緑川ダム  
どんど祭りもあります

### 滞在時間を伸ばして「交流人口を増やそう」

#### フットパスって何？

フットパスとは、【foot 歩く】【path 小路】のことで、歩くことが国民文化のイギリスが発祥です。森林や田園地帯、古い街並みなど、昔からその地域に残るありのままの風景の中を心身で感じ、楽しみながら歩きます。



#### フットパスは新しい歩き方

- \* ウォーキングや〇〇巡り等とは違う
- \* 受け身ではない楽しみ方、歩き方
- \* 寄り道・道草・回り道が大事



道の駅佐俣の湯  
フットパスの  
パンフがあり、  
足湯も楽しめます

### 美里フットパスの仕組みを作る！ 歩く人を歓迎したい

フットパスに参加する人のニーズは

- \* 美里らしい風景
  - \* 地域の人との交流
  - \* 美里らしい食べ物
- 全てに応えるには  
地域の人たちを主体にすること  
地域の人々がコース作りから関わり  
参加から=自分事へ

作るポイントは「ありのまま」

- ① 造らない、壊さない、経費がかからない
- ② 維持管理してきたのは誰か？地域の人たち
- ③ 地域の方たちの生活圏を歩かせていただく
- ④ 地域の日常が非日常
- ⑤ イベントではない歩く文化の創造を目指す

### 地域活性化のツールとしての美里フットパス 交流するのは地域の人と歩きに来た人

コース作りに妥協しない

地域の人に教えてもらった驚きとわくわくする道を何度でも歩いて納得して決める→地域の人も参加するから自分事に意識が変化する

コースの維持管理（草切りなど）は地域の人々の役割になる（季節の花を植える・畑を展望台にして椅子を置く・誰でも遊べる公園）→自分事に→歩きに来た人に喜んでもらえる

【区別化】とガイド

美里ならではの歩きをするために、説明ではなく楽しみ方や歩き方を教えるガイド

ゆっくり歩き五感を使う  
風景や佇まいや音や香り  
ガイドはその邪魔をしない

### 地域がちょっと潤うアイデア導入

- \* 町内の業者による「フットパス弁当」の提供（食のモニターツアー→美里らしい食べ物をの結果を受けて）、美里産の食材・容器の統一
- \* 地域の人々の出番と交流の場を作る  
縁がわカフェ、軽トラカフェ（移動ができるからどこでも、だれでも）  
食の体験（料理を持ち寄って食べていた昔の祭りの再現→田舎の料理がご馳走）



二俣橋  
ハートマークは  
時期と時間限定  
二俣橋構造その  
ものも必見です

イベントにしない地域活性化  
セルフで歩く=フットパスの日常化  
誰が主役になるかわからない「楽しさ」

地域の方によるおもてなし

- \* 日常生活の場を歩かせてくれる
- \* 笑顔と声掛け「フットパスですか？」「どこから来たの？」
- \* 今までと同じ日常の生活

歩くことで見えてくる地域ならではの風景や、それを守ってきた地域の人との温かなふれあいが美里フットパスの何よりの楽しみです。イベントに参加するのも楽しいですが、いつでも、誰とでも、どのコースでも自由に歩くセルフフットパスもおすすめです。

詳細は美里フットパス協会のホームページ検索

こんにちは

挨拶は  
必須



取材を終えて

帰りのエレベーターで講師の井澤先生と乗り合わせました。みんなが口々に「楽しかった！」「元気が出ました！」「今度参加します！」とニコニコでした。